

## 聖日礼拝説教要旨 【2016年2月14日】

### 「再 建 の 時」

エズラ記  
ヨハネによる福音書

第6章 13節～18節  
第2章 19節～22節

説 教 本庄侑子伝道師

エズラ記は、イスラエルが捕囚にあった後、エルサレムに帰還して神殿を再建する話です。6章までは神殿再建が、7章からはエズラの活動が記されます。エズラの登場は7章以降であるにも関わらず、この書物が「エズラ記」とされているのは、神殿再建自体よりも、神殿でのエズラの働きを重視しているということでしょう。

エズラは御言葉を語り伝える人でした。つまり、主が再建させたのはイスラエルの信仰であり、外なる神殿の再建は内なる信仰の再建が目に見える形で現れた結果だったのです。エズラ記は、主によって信仰が再建された者たちの口からほとばしり出た信仰の告白であり、主なる神への再献身とも言える書物なのです。

私たちは今、2015年度を振り返る時にさしかかっています。今年度、主が成してくださった御業を数え上げる恵みの時です。新年度もさらなる前進を祈り願っています。しかしまた、ただ外面的な働きだけが加えられるのではなく、それらが、私たちの口からほとばしり出る信仰の告白、主なる神への再献身のあらわれとなるように祈りたいのです。

ヨハネによる福音書2章13節からは通称「宮きよめ」と言われ、主イエスが神殿の中でお怒りになったことが記されます。人々は神殿の中で商売をしていました。しかしそれは、律法に従って行われた礼拝のための働きであり、商売自体が怒りの対象となったものではありませんでした。神殿があり、礼拝のための働きが行われているにも関わらず、信仰が失われていたことを悲しみ、激しく憤られたのです。

主イエスは言われました。「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう。」(19節)「起す」は「復活させる」とも訳せる言葉です。キリストの復活は、形だけになってしまふ神殿や働きを滅ぼし、全く新しい神殿を立てるために起こりました。それは、決して失われることのない子なるイエスと父なる神との交わり場所、洗礼を受けたキリスト者が組み入れられる教会です。

かつて恩師に、『信仰はアクセサリーではないんですよ。』と言われたことを思い出します。日本で働き始めた私は、周りの流れに乗っていたらあつという間に教会生活が送れなくなる日本社会で、キリスト者として生きることの困難を味

わっていました。社会で生き残ろうとするあまりに心や生活が教会から離れてしまった時、落ち着きませんでした。様々な働きを行い、世で成功しても虚しくなりました。信仰を人生の中心ではなく、アクセサリーにしてしまっていたからです。

私はキリスト者でした。洗礼を受け、聖霊が注ぎ入れられ、新しい神殿、教会に組み入れられ、父なる神との交わりに絶えず呼ばれていたキリスト者でした。打ち消しても、打ち消しても、父なる神との交わりへと呼び戻す声、かつて神殿で響いた主イエスの悲痛な声、憤りの声が響き続けました。

主は私に全く新しい決意を与えてくださいました。まずは、この呼び声に応えられる生活を立て直そう。その中で、神が私を御心になつた働きに導いてくださる。そう思えた時、心に平安が戻ってきました。それから、世においてたくさん損をしたかもしれません。色々手放すことにもなりました。しかし、揺るがない人生の中心に支えられて、何があっても平安でいられるようになりました。

キリスト者は、主の十字架と復活こそが、世界と人間のあらゆる問題をその根源において救う唯一の力であることを知らされ、それを証しするために生かされています。それはどんな働きに精を出すよりもまず、礼拝する群れによって証しされます。主イエスが復活させられた日曜の朝、礼拝へと集められる私たちの姿を通して、復活の主がご自身を顕されるからです。そして、礼拝から御言葉に押し出されて歩む日々において、御心になつた働きへと導かれるのです。信仰は目には見えません。しかし、生活として形をとっていきます。

主イエスは今朝も、私たちがまことの平安を得て、ご自身の救いの御業をこそ証しさせるために叫んでくださいます。私たちの罪を滅ぼし、不信仰な生活を壊し、信仰そのものを再建させるために、私たちに仕えてくださっています。レントの 때가導かれ、エズラ記を記した人々のように信仰が再建させられた姿で教会総会に臨ませていただきます。そうして新年度も、大阪教会の信仰から溢れ出る新しい伝道の業が加えられていくことでしょう。

(記 本庄侑子)